科目名	保育法海	東習	担当教員	由	田	新
竹 日 石	「あそびに対する保育者のかかわりについて考える」		担当形態		単独	
テキスト	資料を適宜用意します。	単 位 数 授業形態	4 単位	演習	開講時期	通年

■到達目標■

- ・あそびと「保育環境」についての基本的な理解をもち、説明できる。
- ・保育者として物的環境を整え、人的環境としての役割をはたすことについて理解し、説明できる。
- ・意図を持ってあそびにかかわることについて理解し、実践できる。
- ・自分のあそびへのかかわりを記録し、それを自分なりに「ふりかえる」ことができる。

■授業のテーマ及び概要■

あそびに対する保育者のかかわりについて考えます。保育者の間接的な援助(環境をつくる・自ら環境となること)、そして保育者の直接的な援助について①文献②自分自身のかかわりを記録し検討すること③保育現場の見学・保育参加等を通して学びます。最終的には、自分でテーマを決めて、卒業レポートを作成します。

受講者同士の話し合いを重視します。積極的に取り組む姿勢をもつことを望みます。

■授業計画■

	· · · —		
第1回	オリエンテーション	第16回	フィールドワークへ向けて
第2回	あそびとは何か①	第17回	フィールドワーク①
第3回	プレーパーク見学	第18回	フィールドワーク振り返り
第4回	プレーパーク見学の振り返り	第19回	フィールドワーク②
第5回	あそびとは何か②	第20回	フィールドワーク振り返り
第6回	あそびと保育環境について	第21回	フィールドワーク③
第7回	あそびと保育者のかかわり	第22回	フィールドワーク振り返り
第8回	実習記録からの振り返り①	第23回	フィールドワーク④
第9回	実習記録からの振り返り②	第24回	フィールドワーク振り返り
第10回	あそびをどう読み取るか①	第25回	フィールドワーク⑤
第11回	あそびをどう読み取るか②	第26回	フィールドワーク振り返り
第12回	実習園の保育環境について考える	第27回	フィールドワーク⑥
第13回	保育者の援助としての環境構成①	第28回	フィールドワーク振り返り
第14回	保育者の援助としての環境構成②	第29回	レポート発表・まとめ①
第15回	卒業レポートのテーマ設定	第30回	レポート発表・まとめ②

■準備学習■

- ・授業に際し、指定された資料を読み、考えをまとめてくること。
- ・フィールドに出た際に、子どもの遊びへのかかわりのエピソードをまとめてくること。
- ・授業後に、その日の学びを整理すること。

- ・フィールドワークの状況 ― 20%
- ・授業内での話し合いでの発言内容・授業内のレポート 40%
- ・卒業レポート 40%

	演習 保育内容総論 子どもの生活・環境・遊びに向き合う(萌文書林) 遊びを中心とした保育(萌文書林) 遊び保育の実践(ななみ書房)	特記	フィールドワークにかかる費用等は個人負担となります。
卒業・免許状・	幼稚園教諭免許状必修	幼	教職に関する科目
資格との関連	保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目

保育方法演習		育 習	担当教員	Щ	野 良	
	「保育を社会的養護の現場から考える」		担当形態		単独	
テキスト	適宜示します。	単 位 数 授業形態	4 単位	演習	開講時期	通年

■到達目標■

- ・フィールドワークや施設見学、授業における議論などから、子どもたちの行動を、多元的、またシステム的に捉えられるように、視野を広げ、さまざまな視点から検討できる。
- ・卒業レポート作成に向けて、事例研究におけるケース記録の活用方法、重要性を理解し、実際の レポート作成に活かすことができる。

■授業のテーマ及び概要■

この演習の中では、社会的養護や障害福祉の現場で必要な、利用者や子どもへのアプローチの基礎を学ぶ。

実習や障害福祉施設、社会的養護関連施設でのフィールドワーク(ボランティア)の実践の中で、施設での利用者や子どもたちの生活がどのようなものかを自ら経験し、さらに、利用者や子どもの気持ちを理解し、対象者とどのように関係を築いていったらよいかを具体的に学ぶこととする。

さらには、利用者や子どもたちの背景にある家族や学校などの状況が、対象者にどのように影響を及ぼしているかを知り、連携の在り方(いわゆるソーシャルワーク)の基礎を学ぶことができればよいと考えている。

また、後期においては、卒業レポートにむけて、事例をどう見たり記録したら良いかも検討する。

■授業計画■

第1回	オリエンテーション	第16回	後期授業にむけてオリエンテーション
第2回	保育所・施設実習を振り返る①	第17回	フィールドワーク⑥
第3回	保育所・施設実習を振り返る②	第18回	フィールドワークの振り返り
第4回	フィールドワーク①	第19回	フィールドワーク⑦
第5回	フィールドワークの振り返り	第20回	フィールドワークの振り返り
第6回	フィールドワーク②	第21回	フィールドワーク⑧
第7回	フィールドワークの振り返り	第22回	フィールドワークの振り返り
第8回	フィールドワーク③	第23回	レポートテーマ設定①
第9回	フィールドワークの振り返り	第24回	レポートテーマ設定②
第10回	幼稚園実習を振り返る①	第25回	レポート作成①
第11回	幼稚園実習を振り返る②	第26回	レポート作成②
第12回	フィールドワーク④	第27回	レポート発表①
第13回	フィールドワークの振り返り	第28回	レポート発表②
第14回	フィールドワーク⑤	第29回	まとめ①
第15回	フィールドワークの振り返り	第30回	まとめ②
1			

■進備学習■

授業で指定された次のような課題にきちんと取り組んだ上で、次回の授業に出席すること。

- ・フィールドワーク先の施設等の資料やホームページについてきちんと目を通しておくこと。
- ・フイールドワーク後のレポート作成など。
- ・卒業レポートに向けての調査及びレポートの作成。

- ・小レポート 30%
- · 卒業レポートの内容 40%
- ・フィールドワークや授業での議論への参加のあり方 30%

参考文献	特になし	特記 事項	特になし
卒業・免許状・	幼稚園教諭免許状必修	幼	教職に関する科目
資格との関連	保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目

-	科目名	保育方法	寅習	担当教員	明	石	現
	竹 日 右	「子どもと芸	術」	担当形態		単独	
,	テキスト	随時配布します。	単 位 数 授業形態	4 単位	演習	開講時期	通年

■到達目標■

子ども時代の無垢なこころとは何かを調査・考察し、そこに芸術がいかに関与できるのかをグループワークを通して検証・体験し、一人ひとりが保育・教育・福祉現場における芸術活動の具体的方法を構築する。

■授業のテーマ及び概要■

ふと人生で、子ども時代のこころを振り返った時、その無垢という美しさにしばらくこころを溜める瞬間を経験するのは、私だけではないはずである。母に抱かれた確かさへの郷愁とでもいうのであろうか…。芸術から受ける恵みは、この確かさへと戻る瞬間、知る瞬間、そして確かさに抱かれる喜びである。

さて今授業のテーマおよび概要は、子どもの育みへ芸術がいかに関与できるのか、その考察と実施、並びに実現である。芸術が、子どもの無垢な心を引き出す力があるという視点からはじめ、その役割を見つめたいと思っている。では、無垢なこころとは一体何であるのか?

- ・世代間での差異はあるのか?
- ・国境を越えての差異はあるのか?
- ・障碍を受けた方々との差異はあるのか?

これらの調査を実施し、無垢なこころとは何か、そして、この心が、我々の人生にいかに係わり、 生かされているのかを考察する。また、このこころを引き出す芸術に於ける役割をも同時に検証し、 最後に、この学びの成果として、手話合唱を含めたコンサート形式としての舞台化を試みる。芸術 という体験で、その底にある人間らしいやさしさの種子を理屈ではなく、掘り当てる如く。

■授業計画■

■準備学習■

- ・指示した課題(設定、レポート等)を期限内に行うこと。
- ・フィールドワーク先の事前学習等、円滑なグループワークの準備。

- ・授業への参加、取組み姿勢(グループワークにおける発言、積極的な参加姿勢等)― 50%
- ・レポート作成 50%

	プラテーロとわたし(岩波文庫) 光の中へ(めるくまーる)	特記 事項	特になし
卒業・免許状・	幼稚園教諭免許状必修	幼	教職に関する科目
資格との関連	保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目

科目名	保育方法演	育 習	担当教員	深	谷ベル	レタ
	「言葉から保育にアプロー、	チする」	担当形態		単独	
テキスト	特になし	単 位 数 授業形態	4 単位	演習	開講時期	通年

■到達目標■

この授業の到達目標は(1)言葉に対する感性(語感)を養い、(2)言葉に対する認識を深め、(3)文書を組み立てる能力を身につけること。

■授業のテーマ及び概要■

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」のいずれにおいても、「言葉」が重要な保育内容の一つになっています。「子どもの言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとする意欲や態度を育て、言葉で表現する力(感覚や態度)を養う」ことが重要な保育目標の一つです。その目標を達成するためには、保育者自身の言葉に対する認識や、言葉の豊かさが欠かせない前提です。本授業でいろいろな型の文章を読んだり書いたりします。

授業計画

第1回	保育記録から課題を見つける①	第16回	母親を物語る①
第2回	保育記録から課題を見つける②	第17回	母親を物語る②
第3回	保育記録から課題を見つける③	第18回	母親を物語る③
第4回	社会的地位や年齢に関する言葉	第19回	自己PRの言葉①
第5回	社会的性別(ジェンダー)に関する言葉	第20回	自己PRの言葉②
第6回	職業的属性に関する言葉 (保育者の言葉)	第21回	自己PRの言葉③
第7回	保育や教育理念に関する言葉①	第22回	仕事について物語る①
第8回	保育や教育理念に関する言葉②	第23回	仕事について物語る②
第9回	保育や教育理念に関する言葉③	第24回	仕事について物語る③
第10回	子どもを物語る言葉①	第25回	個別相談の上各自の物語/エッセイ集を作成①
第11回	子どもを物語る言葉②	第26回	個別相談の上各自の物語/エッセイ集を作成②
第12回	子どもを物語る言葉③	第27回	個別相談の上各自の物語/エッセイ集を作成③
第13回	保育者を物語る言葉①	第28回	個別相談の上各自の物語/エッセイ集を作成④
第14回	保育者を物語る言葉②	第29回	個別相談の上各自の物語/エッセイ集を作成⑤
第15回	保育者を物語る言葉③	第30回	ゼミのまとめ、発表会の準備

■準備学習■

指定されたテキストを読む。課題文章を書く。

- ・授業での取り組み(討議での発言内容等) 25%
- · 文章課題 50%
- ・読書理解 25%

参考文献	特になし	特記 事項	特になし		
i - 1	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修	幼	教職に関する科目		
		保	保育の内容・方法に関する科目		

科目名	保育方法演	担当教員	金 瑛 珠		珠	
11 11 11	「"子ども理解"と"援助"について考える」				単独	
テキスト	保育技能の探究 (建帛社)	単 位 数 授業形態	4 単位	演習	開講時期	通年

■到達目標■

保育者になる前に、この授業では仲間と共に話し合いを行っていく。その中で、最終的な到達目標は以下の2つと する。

- ・保育の記録を丁寧に書くこと。また、その記録を用いて、しっかり考察する力をつけること。
- ・自分のことばで自分の思いを語り、他者の思いにしっかりと耳を傾けることができること。

■授業のテーマ及び概要■

1年次に幼稚園・保育所・施設にて実習を行ってきた中で、皆さんは、実習録に "観察したこと・かかわったことを書き記す"、"自分の思いや気づきを書き残す"などの作業、すなわち、"書く"作業をし、そこから "深く考える"ことが求められてきた。しかし、十分に考えを深めることは時間的にも経験的にもまだ難しく、自分自身でも物足りなさを感じていたのではないかと思われる。そこで、この授業では、前期は各自の実習録に書かれた記録をベースに、気になっていること・もう一度考えてみたいことを抽出し、共にじっくり考えることを試みる。そして、すべての実習を終えた後期には、保育における用語や、当たり前のように使ってきたことば、"見守る" "声をかける" "待つ"などとはどういうことかを事例や園見学を通して深く考え、理解を深めていく。

■授業計画■

基本的には、各自の実習記録や教員が提示する事例等を用いて保育における"子ども理解"や"援助"について考えていく。

後期にはゼミメンバーが興味を持った共通の事柄に対しての理解を深めるために、全員で幼稚園・保育所に出かけていくことも計画する。また、まとめのレポートを作っていく前段階として、各自が主体となって討論のテーマを設定し、話題提供をし、討論を行う。そして、最終的に各自でテーマを決めて、まとめのレポート作成に取り組む。

第1回	オリエンテーション	第16回	フィールドワークの振り返り
第2回	1年次の実習体験の振り返り(フリートーク)	第17回	園見学・保育参加(フィールドワーク) Ⅱ 一 1
第3回	1年次の実習体験の振り返り(実習記録などを用いて)①	第18回	園見学・保育参加(フィールドワーク) Ⅱ ― 2
第4回	1年次の実習体験の振り返り(実習記録などを用いて)②	第19回	フィールドワーク振り返り
第5回	1年次の実習体験の振り返り(実習記録などを用いて)③	第20回	自主討論会①
第6回	教育実習Ⅱに向けての課題整理	第21回	自主討論会②
第7回	教育実習 Ⅱ を終えて(フリートーク)	第22回	自主討論会③
第8回	記録に書かれたことから何を学べるか、記録の検討①	第23回	授業のまとめ
第9回	記録に書かれたことから何を学べるか、記録の検討②	第24回	まとめのレポート作成に向けて各自の課題確認/取り込み計画作成
第10回	選択実習に向けての課題整理	第25回	まとめのレポート作成(個別指導)①
第11回	選択実習を終えて	第26回	まとめのレポート作成(個別指導)②
第12回	記録に書かれたことから何を学べるか、記録の検討	第27回	まとめのレポート作成(個別指導)③
第13回	テキストを通して"保育技能"についてのディスカッション	第28回	まとめのレポート発表とディスカッション①
第14回	園見学・保育参加(フィールドワーク) I-1	第29回	まとめのレポート発表とディスカッション②
第15回	園見学・保育参加(フィールドワーク) I―2	第30回	まとめ

■準備学習■

- ・実習記録を元に話し合いを行う際、事前に記録を整理し、考察を書き加えること。
- ・話し合いが終わった後、再度、記録の考察を各自が行うこと。
- ・授業で紹介する参考文献などは、きちんと目を通したうえで話し合いに参加すること。

- ・授業への取り組み(討議への積極的な取り組み、発言内容等) 80%
- ・まとめのレポート 20%

参考文献	随時、紹介する。		受講生同士で話し合いをしていく中で理解が深まっていく内容なので、欠席は極力しないこと。この授業においては、教務規定の<4/5以上の出席が単位認定の条件>というルールは適用させず、無断欠席は認めません。
卒業・免許状・	幼稚園教諭免許状必修	幼	教職に関する科目
資格との関連	保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目

科目名	保育方法	寅習	担当教員	小久保 圭一郎
	「保育実践	論」	担当形態	単独
テキスト	特になし	単 位 数 授業形態	4 単位	演習 開講時期 通年

■到達目標■

保育を実践するために必要な能力を理解し修得する。

■授業のテーマ及び概要■

本演習における「保育を実践するために必要な能力」とは<基礎的学術能力>すなわち広義での <コミュニケーション能力>のことである。それを修得するための修練として本演習では、<読む ><書く><伝える><応答する>ことを繰り返し実践していく。前期はこれまでの実習に関する テーマでゼミ発表とディスカッション、後期は定期的な保育現場へのフィールドワークと実践レ ポートを研究材料としたディスカッションを行なう。

■授業計画■

	· · · 		
第1回	前期オリエンテーション①	第16回	後期オリエンテーション
第2回	前期オリエンテーション②	第17回	フィールドワーク①- (1)
第3回	ゼミ発表/ディスカッション①	第18回	フィールドワーク①- (2)
第4回	ゼミ発表/ディスカッション②	第19回	フィールドワークに関するディスカッション①
第5回	ゼミ発表/ディスカッション③	第20回	フィールドワーク②- (1)
第6回	ゼミ発表/ディスカッション④	第21回	フィールドワーク②- (2)
第7回	ゼミ発表/ディスカッション⑤	第22回	フィールドワークに関するディスカッション②
第8回	ゼミ発表/ディスカッション⑥	第23回	フィールドワーク③- (1)
第9回	ゼミ発表/ディスカッション⑦	第24回	フィールドワーク③- (2)
第10回	ゼミ発表/ディスカッション⑧	第25回	フィールドワークに関するディスカッション③
第11回	ゼミ発表/ディスカッション⑨	第26回	フィールドワーク④- (1)
第12回	ゼミ発表/ディスカッション⑩	第27回	フィールドワーク④- (2)
第13回	ゼミ発表/ディスカッション⑪	第28回	フィールドワークに関するディスカッション④
第14回	ゼミ発表/ディスカッション⑫	第29回	学内における実践報告会
第15回	前期まとめ発表/質疑応答	第30回	フィールドにおける実践報告会

■準備学習■

前期:ゼミ発表/ディスカッション:これまでの実習に関するレポート作成

後期:フィールドワーク:フィールドワークに関するレポート作成

■評価方法■

ゼミ発表及びゼミでの議論・フィールドワーク・実践報告会への積極的な参加 — 50%卒業レポート(400字詰め原稿用紙に換算して80枚相当)提出・発表内容 — 50%

参文		特になし	特記事項	・卒業レポートはパソコン(Micosoft word)にて作成する。 ・フィールドワークその他学外学習にかかる費用はすべて自己負担とす る。 ・フィールドワークその他学外学習は時間割で指定された曜日以外にも 実施する場合がある。
卒業·免	許状・	幼稚園教諭免許状必修	幼	教職に関する科目
資格との	の関連	保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目

和 日 夕	科 目 名 「子育て子育ち支援~地域・保護者・子ども・		担当教員	石 井 章 仁		仁
71 11 11			担当形態		単独	
テキスト	特になし	単 位 数 授業形態	4 単位	演習	開講時期	通年

■到達日標■

本科目は、地域で子育てをする全ての家庭に向けた「子育ての支援」のあり方や「組織における自身の良さの発揮」について「計画〜実践〜評価〜改善(PDCA)」を理解し、実践に活用する力をつけることを第1の目的としています。また、自身のこれまでの実習体験やフィールドでの学びと連動させ、自身の良さや課題を発見し、自己理解を深めながら「強み」を伸ばし、「弱み」をカバーする意識や方法を身につける目的も持っています。

■授業のテーマ及び概要■

保育士の職務は、保護者に代わって子どもを保育する他に、保護者への育児に関する支援をすることも含まれます。子どもが地域や家庭で豊かに生活することを支援するためには、保護者と共にその成長を喜びながら、保護者や家庭に対する個別の援助、集団の援助、地域の子育て家庭への援助を行う必要があります。そのためには、まず、自身が心を開き、人とかかわり、共に学びあい育ち合う必要があります。それをゼミで体験する事から考えていきましょう。 <前期>

1年次の実習を考察し直し、教育実習や保育実習Ⅱ・Ⅲに向けた課題の設定を行います。また、地域で活動する「おゆみ野カフェ」に参画し、企画し実践する体験を行います(月1回、第4土曜日)。 <後期>

①週1回(10:00-16:00)、学内の子育て広場「育ちあいのひろばたいむ」において、学生主体で広場の運営を行います。 広場を運営しながら、それぞれの良さを伸ばし、課題をカバーしていきます。「計画・実践・評価・改善」の過程を意識し、仲間と「共に働く集団」を組織し、子どもや保護者とかかわりを持ちながら、自身の育ちを確認していきます。

②附属幼稚園のめいとクラブの活動に参画します。 ③さらに、自身の実践や実習とのつながりを意識しながら、レポートを作成します。

■授業計画■

■進備学習■

- ・活動
- ・運営に関する準備等
- ・レポートの作成
- ・希望があればゼミ合宿等の集中的な学びの機会

- ・活動への参加状況(フィールドワークへの積極的な取り組み) 50%
- ・まとめのレポート 50%

参考文献	追って指示する。	特記 事項	・設定された授業時間内にとどまらず、授業日は終日 予定を空けておくようにしてください。 ・テーマに関わらず、実践者としての自分を高めたい と思う方も歓迎します。
卒業・免許状・	幼稚園教諭免許状必修	幼	教職に関する科目
資格との関連	保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目

科目名	保育 方法 演習				片 川 智 子		
	「共に生活する場としての保育を考える」				単独		
テキスト	よト 特になし		4 単位	演習	開講時期	通年	

■到達目標■

- ・自分も含め、大人にも子どもにも各々に尊重すべき思いがあることを理解し、振り返りができる。
- ・"私が"どのように子どもを捉えようとし、かかわろうとしたのかを表明し、他者と検討できる。
- ・保育の中で、生活の中で「私が大切にしたいこと」を明確にし、言葉にできる。

■授業のテーマ及び概要■

これまでの実習等の体験で、子どもとかかわる中で、嬉しいと思えたり、難しいと思ったことがあると思います。それは即ち、それぞれに自分自身の思いをもって子どもとかかわろうとしたということです。一方で、子どもにも思いがあり、様々にその思いを表しています。子どもを理解し尊重することと、同時に大人の意図や思いがあること、お互いがどのように関わり合っていけるのかをじっくり考えていきましょう。そのために実習の振り返りや、現場に入らせていただきながら、大人と子どもが共に生活することについて、メンバーと共に検討していきたいと思います。

■授業計画■

第1回	概要説明と自己紹介①	第16回	これまでの実習から、印象に残ったことを考え合う
第2回	概要説明と自己紹介②	第17回	現場実践①
第3回	概要説明と自己紹介③	第18回	現場実践に基づく振り返り① 記録を用いた意見交換
第4回	これまでの実習を概観する①	第19回	現場実践に基づく振り返り② 自由討議
第5回	これまでの実習を概観する②	第20回	テーマを設定した話し合い
第6回	実習の課題を多角的に考える①	第21回	現場実践②
第7回	実習の課題を多角的に考える②	第22回	現場実践に基づく振り返り③ 記録を用いた意見交換
第8回	実習の課題を多角的に考える③	第23回	現場実践に基づく振り返り④ 自由討議
第9回	子どもとのかかわりに見る自分の意図や思い①	第24回	テーマを設定した体験または話し合い
第10回	子どもとのかかわりに見る自分の意図や思い②	第25回	中間確認
第11回	子どもとのかかわりに見る自分の意図や思い③	第26回	現場実践③
第12回	さまざまな子どもの思いとその表現を実習体験から捉える①	第27回	現場実践に基づく振り返り⑤ 記録を用いた意見交換
第13回	さまざまな子どもの思いとその表現を実習体験から捉える②	第28回	現場実践に基づく振り返り⑥ 自由討議
第14回	さまざまな子どもの思いとその表現を実習体験から捉える③	第29回	テーマを設定した体験または話し合い
第15回	さまざまな子どもの思いとその表現を実習体験から捉える④	第30回	まとめレポートを用いた自由討議
1			

■準備学習■

- ・現場実践の記録を書いて翌週の授業に臨むこと。
- ・話し合いの内容をまとめ、次回の現場実践への課題を考えること。
- ・個別課題に基づくまとめレポートを作成すること。

- ・現場実践記録 30%
- ・話し合いへの取り組み 30%
- ・個別課題に基づくまとめレポート 40%

参考文献	適宜紹介します。	特記事項	特になし
卒業·免許状·	幼稚園教諭免許状必修	幼	教職に関する科目
資格との関連	保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目

科目名	保育方法	寅 習	担当教員	田	中	葵
	「保育における身体表現活動の探求」		担当形態		単独	
テキスト	特になし	単 位 数 授業形態	4 単位	演習	開講時期	通年

■到達目標■

- ・身体表現の特性を体験や文献を通して学び、表現に対する自分の考えを持つ。
- ・自分の考えやイメージを、言葉と身体を使って表現することができる。
- ・他の人の表現をひきだす方法を学び、保育において活かすことができる。

■授業のテーマ及び概要■

本授業ではさまざまな身体表現の体験を通し、自分の表現の幅を広げると同時に、表現活動について、理論と実践の両面から考えていきます。また、6月の実習後は、子どもだけではなく、性別、年齢、障害の有無を越える、コミュニティダンスについて事例を通じて学び、ダンスや身体表現活動の創作を目指します。これらの体験をふりかえりながら、保育における表現活動について検討しながら深めていきます。

■授業計画■

第1回	オリエンテーション	第16回	さまざまな人と楽しむ参加型ダンス計画③
第2回	子どもにとっての運動、表現	第17回	学外フィールドワーク②
	(「幼児期運動指針」など)		(学園祭/まあるい広場お祭りへの参加)
第3回	保育における身体表現活動の検討、実践①	第18回	ふりかえり
第4回	保育における身体表現活動の検討、実践②	第19回	学外フィールドワーク③
第5回	日常生活における身体表現の芽生え①		(おゆみの文化祭への参加)
第6回	日常生活における身体表現の芽生え②	第20回	ふりかえり、課題・関心の模索
第7回	実習に向けた課題の確認	第21回	身体表現の展開、指導法の探求①
第8回	幼稚園実習ふりかえり	第22回	身体表現の展開、指導法の探求②
第9回	さまざまな体の動かし方を学ぶ①	第23回	身体表現の展開、指導法の探求③
第10回	さまざまな体の動かし方を学ぶ②	第24回	身体表現まとめ
第11回	コミュニティダンスの事例から学ぶ	第25回	卒業レポートテーマの設定及び個別面談①
第12回	フィールドワークに向けた事前学習	第26回	卒業レポートテーマの設定及び個別面談②
第13回	学外フィールドワーク①	第27回	卒業レポートの作成及び個別面談①
	(近藤良平氏による"にゅ~盆踊り"参加)	第28回	卒業レポートの作成及び個別面談②
第14回	さまざまな人と楽しむ参加型ダンス計画①	第29回	各卒業レポートの発表、議論
第15回	さまざまな人と楽しむ参加型ダンス計画②	第30回	1年間のまとめ

■準備学習■

授業毎にレポートを提出する。

- ・授業内及びフィールドワークのレポート 30%
- ・授業での取り組み(話し合いや創作時の積極的な参加) 40%
- ・卒業レポート 30%

参考文献	幼児のこころと運動 2003. (教育出版) コミュニティ・アートプロジェクト ゼロタテ/絶 望をエネルギーに変え、街を再生する2013 (アート NPOゼロタテ) 等、随時紹介する。	特記事項	学外学習に伴う交通費及び参加費用は自己負担と なる。
	幼稚園教諭免許状必修	幼	教職に関する科目
	保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目

科目名				伊 藤 恵里子		里子
11 11 11	「保育者とは社会の中でどのよう に生きる大人なのかを考える」		担当形態		単独	
テキスト	特になし	単 位 数 授業形態	4 単位	演習	開講時期	通年

■到達目標■

- ・保育者の周りの社会の様相、さらに、そこで保育者がどのように生きているのかをとらえ、自分 なりの意見をもてる。
- ・保育者となる "私" の在り様一保育者として子どもに何を願うのか、子どもとどう向き合いたい のかについて思考を深め、自分なりの意見をもてる。

■授業のテーマ及び概要■

本授業は、保育者を一つの職業としてとらえ、社会的にどのような役割をもち、何が求められているのか、そして保育者となる"私"は子どもに何を願い、どう向き合うのかについて考えることをねらいとしている。そのために、まずは私たちが生きているこの日本社会―とりわけ家族、労働に関わる諸問題について、新聞や文献等を用い、受講生同士で話し合いながらその様相をとらえることから始める。

授業方法は、文献講読会や討論会を多く取り入れ、保育者として働く卒業生との座談会も行う。

■授業計画■

第1回	オリエンテーション	第16回	保育者の周りの社会①(子ども、保護者との関係)
第2回	プレ討論会	第17回	保育者の周りの社会②(同僚との関係)
第3回	「家族」をとらえる①	第18回	保育者の周りの社会③ (地域性)
第4回	「家族」をとらえる②	第19回	保育者の周りの社会④ (保育に関する制度)
第5回	「家族」をとらえる③	第20回	保育者の周りの社会⑤ (まとめ:卒業生との座談会)
第6回	「家族」をとらえる④	第21回	卒業レポートのテーマ設定①
第7回	「家族」をとらえる⑤ (まとめ)	第22回	卒業レポートのテーマ設定②
第8回	「労働」をとらえる①	第23回	卒業レポートの作成①
第9回	「労働」をとらえる②	第24回	卒業レポートの作成②
第10回	「労働」をとらえる③	第25回	卒業レポートの作成③
第11回	「労働」をとらえる④	第26回	卒業レポートの中間発表
第12回	「労働」をとらえる⑤ (まとめ)	第27回	卒業レポートの作成④
第13回	ゼミ合宿の企画	第28回	卒業レポートの作成⑤
第14回	ゼミ合宿の実施① (前期のまとめ)	第29回	卒業レポートの発表
第15回	ゼミ合宿の実施② (前期のまとめ)	第30回	一年間のまとめ

■準備学習■

- ・次回の授業で取り扱うと指定された文献を読み、自身の考えを持って授業に臨むこと。
- ・提示した課題に取り組み、期限内に提出すること。

- ・授業時間内に行われる文献講読会、討論会においての積極性や発言内容 40%
- ・提示した課題の提出状況及び内容 20%
- ・卒業レポートのテーマ設定理由及び内容 ― 40%

参考文献	必要に応じて紹介する。	特記事項	・夏季休業中に1泊2日のゼミ合宿を予定している。・費用は10千円程度。
	幼稚園教諭免許状必修	幼	教職に関する科目
	保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目

科目名	保育方法演		担当教員 柴田大		輔	
17日石			担当形態		単独	
テキスト	特になし	単 位 数 授業形態	4 単位	演習	開講時期	通年

■到達目標■

- ・さまざまな人と関わり合い、保育で必要とされる他人とのコミュニケーション能力を身につける。
- ・他人を識るととともに、自分自身を識ることができる。

■授業のテーマ及び概要■

本授業では「人と関わり合うこと、コミュニケーションを図ること」をテーマとし、自身の活動を自分の目で振り返ること(つまり主観的に自身を捉えること)とともに、他人の目から自身を客観的に捉えることに取り組む。

具体的には、主に保育現場での活動を中心として、自身の体験を振り返り、仲間たちとの意見交換を重ねることを通じて「自分はどんな人なのか」を主観的のみならず、客観的にも理解できることを目指す。また保育現場以外での活動にも取り組む。

■授業計画■

第1回	前期オリエンテーション	第16回	後期オリエンテーション
第2回	伝えることについて考える①	第17回	伝えることについて考える②
第3回	フィールドワーク①準備(計画)	第18回	フィールドワーク④準備(計画)
第4回	フィールドワーク①実施	第19回	フィールドワーク④実施
第5回	フィールドワーク①振り返り(評価・改善)	第20回	フィールドワーク④振り返り(評価・改善)
第6回	自己分析①	第21回	自己分析③
第7回	フィールドワーク②準備(計画)	第22回	フィールドワーク⑤準備(計画)
第8回	フィールドワーク②実施	第23回	フィールドワーク⑤実施
第9回	フィールドワーク②振り返り(評価・改善)	第24回	フィールドワーク⑤振り返り(評価・改善)
第10回	自己分析②	第25回	中間総括・最終目標設定
第11回	フィールドワーク③準備(計画)	第26回	最終目標に向けた各自活動(まとめ①)
第12回	フィールドワーク③実施	第27回	最終目標に向けた各自活動(まとめ②)
第13回	フィールドワーク③振り返り(評価・改善)	第28回	最終目標に向けた各自活動(まとめ③)
第14回	前期振り返り、成果まとめ①	第29回	全体総括(まとめ①)
第15回	前期振り返り、成果まとめ②	第30回	全体総括(まとめ②)

■進備学習■

活動を実践(体験)して終わるのではなく、「実践(体験)を通じて学んだことを振り返り、考察すること」「次回の実践(体験)に向けて目標を立てること」を必ず行い、次回の授業に臨むこと。

- ・授業での取り組み(フィールドワーク活動、及び議論への参加など) ― 70%
- ・まとめレポート 30%

	参考文献	特になし	特記 事項	・保育現場をはじめとしたフィールドワークを実施する為、時間割上の 授業時間以外での活動を実施することがあります。また移動時間など で指定された授業時間を超える場合もあります。 ・フィールドに出る際の交通費等の費用は全て自己負担になります。 ・保育に限らず、様々な活動に意欲を持って取り組むことを望みます。
2		幼稚園教諭免許状必修	幼	The state of the s
}		保育士資格必修	保	保育の内容・方法に関する科目